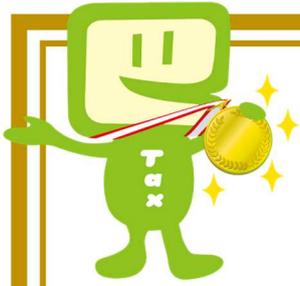


大阪国税局長賞



将来と責任

大阪教育大学附属高等学校平野校舎 1年 松本 真凜

税金と聞いて私が一番に連想したのは消費税です。スーパーやコンビニなどたくさんの場所です。他にも日本には約五十種類の税金が存在します。私が税の授業で学んだ税金の使い道は警察や消防、道路の整備などの公共サービス、もちろん学校でも使われています。税金がなくなると私達の生活の当たり前がなくなってしまうのです。

税金について調べていくとふと中学生の時の友達の言葉を思い出しました。

「これはみんなが払ってくれてる税金で買ってるねん。」

児童養護施設で生活していた友達です。

当時、児童養護施設で暮らしていた友達は、学期の途中で私の通う学校に転校してきました。小さなきっかけで、よく話すようになり一緒にお出かけもしました。施設で開催される行事と一緒に参加したときは、たくさんの子たちとお話をしました。みんなとても優しく、素直で人懐っこかったのを覚えています。いつも笑顔の友達でしたが、暗い表情を見せることも、もちろんありました。それから私は少しずつ児童養護施設について興味を持ち始めました。

「児童養護施設」とは虐待や経済的な事情で親と一緒に暮らすことのできない子どもたちが生活する施設です。こういった施設の運営には基本的に税金が使われています。具体的には子どもたちの衣食住の費用や学費、職員の人件費です。また十八歳を過ぎて退所する子どもたちの新生活の準備や退所後の支援などにも使われます。

調べてみて、私は自分だけじゃないたくさんの人が納めた税金がこのように役に立っていることへの驚きと、税金を納めることへの責任を感じました。

税の作文を書くために、過去の受賞作品をみました。その中には私の友達のような、児童養護施設で暮らしている子たちが書いた作品がたくさんありました。そこには、税金に生活が支えられていることへの感謝や、決して贅沢ではないこと、世間からの心無い言葉に対する意見も書かれていました。

私はこれを読んで、こういう税金に直接深く関わっている人だけじゃなく、もっとたくさんの人に税金について正しく理解してほしいと思いました。今まで使い道も知らずに払っていた税金。でも自分の払ったお金が誰かの生活の一部を支えていること、それだけで責任感が生まれます。

税金について正しく理解する人が増えるべきです。税金の使い道や意義を知ると、税金を納めることへの責任感が生まれるからです。また、これから先の私たちの生活に深く関わってくる税金の大切さを、日本の将来を担う人たちに伝えるべきです。